

平成 23 年度フレッシュ・パーソン・セミナーグループ討議

「図書館の企画・広報・PR—利用者に図書館をもっとよく知ってもらうために」

1 班 司会 中島 大
発表 池田しずか
記録 熊谷和香子

1. 自分の図書館で現在行っている企画・広報・PR について

- ・ 展示
掲示板や展示スペースを使つての資料展示。新着本の展示やテーマを設けての企画展示を行っている。テーマとしては、学生の研究分野に関するもの、郷土に関するもの、美術展などの話題や流行にからめたものなど。
- ・ 講演会の実施
- ・ 学祭やオープンキャンパスでの行事
図書リサイクルフェア・・・寄贈本などを学生や市民に無料で提供。
古本市・・・学内で集めた本を安価で提供。
宝探し・・・難易度別に作成された問題を解き、カードを挟んだ本に行き当たると賞品がもらえるゲーム。
- ・ 図書館キャラクターの活用
広報誌や掲示物に登場させたり、キャラクターグッズを作成したりしている。
- ・ 図書館広報誌
- ・ 学生による選書
書店でのブックハンティング。広報誌に掲載する紹介文や展示用ポップ書きなどを依頼し、選書後も学生に活動してもらっている。
- ・ 学生ボランティアによる活動
図書館サポーターズによるボランティア活動。学生用図書の選書や展示、開架整理やオープンキャンパス時の案内などを、学生が自主的な活動として行う。
- ・ 図書館説明ツアー
新入生全員、または希望者を対象にし、図書館の利活用法を説明する。教員からの要請により、ゼミ単位で文献検索の方法などを指導するケースもあり。
- ・ Web や教育システムからの情報発信

2. 今後やってみたいと思う企画や広報のアイデアや、効果的な PR 方法について

- ・ 展示を工夫し、たくさんの人に見てもらいたい
- ・ 利用案内の強化し、図書館でできることを知ってもらいたい
- ・ 寄贈本の無料配布など、人が集まる企画を行いたい
- ・ HP を面白いものにした
- ・ 広報誌を作りたい、広報誌をより良いものにした
- ・ 新鮮な情報を発信したい（ツイッターや SNS の利用）

3. 1 についての問題点や改善点、2 を行う上での課題や問題点について

- ◆ 展示に関連すること
 - ・ テーマが固く、学生が食いつかない。
 - ・ 同じようなテーマに偏りがち。
 - ・ 展示を変更する時期の目安がないので同じ資料が長く置かれ、新鮮味に欠ける。

- ・展示の予算がなく、職員が持ち寄ったものや自腹で購入したもので飾っている。
- ・展示スペースが狭い。
- ・目を引く展示をしたいが、目立つようにするのが図書館として相応しいか迷う。
- ◆ 企画に関連すること
 - ・企画の実施が利用率アップにつながっているのか疑問。
 - ・企画への参加を募っても応募が少なく、学生の反応が薄い。
- ◆ 情報発信に関連すること
 - ・発信はしているが、学生が見てくれているかは疑問。
 - ・ツイッターや SNS での「やわらかい」情報発信をしたいが、どこまで可能か。また、誰に、どう了承を得たらよいか。

4. まとめ

1～3の話し合いの中で、「図書館のイメージが固くて学生が来ないのではないか」、「展示を十分に行えていない」、「伝えたい情報が伝わっていない」、ということが多くの班員から出されたため、図書館のイメージ、展示、情報発信、この3つをどう改善していくかについて重点的に話し合った。

- ① 図書館の固いイメージを何とかしたい

広報誌や掲示物のデザイン・表現方法を、若い人の感性に訴えるものになるように工夫していけば、図書館を現在あまり利用していない人にも受け入れてもらえるようになるのではないか。
- ② スペースの狭さなどが原因で、十分な展示ができない

展示を一箇所に固定化する必要はないのではないか。図書館という空間をもっとフレキシブルに活用することで、展示にも変化が生まれ、見てもらえるものになるのではないか。
- ③ 知ってほしい情報が伝わっていない

掲示物や HP 上の情報、メールの配信が多すぎることで、本当に伝えたい情報が埋もれてしまっているのではないか。伝えたい情報を厳選した上で発信していかなくてはならない。

大学の規模や学部の構成などによって、それぞれの図書館の状況や事情が異なるため、全ての図書館の問題を一掃するような画期的な解決法を導き出すには至らなかったが、上記のような改善を図ることで、図書館をもっとよく知ってもらえるようになり、利用率アップにつながっていくのではないかと結論に達した。